

③③北前船寄港地フォーラム in Okinawa

文化観光スポーツ部

実施主体：県が主体となり、実行委員会を設立（北前船交流拡大機構、市町村、民間等と連携）

実施時期：令和5年2～3月頃

<50周年記念事業のテーマ>

3 事業を通して、祖先への敬意、自然への畏敬の念、他者の痛みに寄り添う肝心など、沖縄文化の魅力を共有し、恒久平和を願い、喜びを分かち合うユイマールの思いを大切にする、沖縄らしいやさしい社会の実現に向けた機運を高める。

【事業の内容等】

「北前船（きたまえぶね）」は、江戸時代から明治期にかけて、北海道・東北・北陸・関西・九州を結ぶ広範囲の物流ネットワーク機能を果たしており、100年ほど前には日本海側の各寄港地を拠点とする経済圏が存在していた。

かつて日本海側が栄えた「北前船寄港地」ルートを点から面へ、回廊として発展させようとする構想（北前船コリドール構想）に賛同した自治体・企業などが、2007年から29回に亘り日本全国（及び中国）の北前船寄港地等においてフォーラムを開催してきた（鉄道・航空関連大手企業等を中心とした機構「（一社）北前船交流拡大機構」と連携）。

沖縄は北前船の寄港地ではないが、江戸時代後期、北海道で収穫された昆布が、薩摩から琉球を経て、中国（清）に届けられた歴史があり、その道筋は「昆布ロード」と呼ばれ、琉球処分により進貢貿易が終わるまで、琉球にとっても昆布は重要な輸出品となった。

「世界とつながる」ことは本県が持続的に発展するためのカギであり、琉球王国時代にアジア諸国との交易・交流で繁栄してきたその歴史を振り返り、「沖縄を結び目とするグローバルな交流ネットワーク」を形成すべく、復帰50周年記念事業として、「北前船寄港地フォーラム in Okinawa」を沖縄で開催。

当該フォーラムでは、①「「昆布ロード」を含め、アジア諸国との交易・交流の歴史を振り返る」とともに、②「コロナ収束後を見据えて、北前船コリドール構想の趣旨に鑑み、寄港地と「昆布ロード」をつなぐ観光・文化交流の可能性を探る」ことをテーマ（案）にする。

- ・実施時期等 令和5年2～3月頃の3日間。国内外含め1000人規模の参加を予定
- ・主な内容(案) 基調講演やパネルディスカッション等を実施
 - テーマ①歴史・文化：北前船の交易の歴史と琉球の関わり
 - テーマ②地域間交流：北前船寄港地ルートを活用した観光・文化交流の可能性世界遺産や日本遺産（琉球料理、泡盛、芸能）等の沖縄の魅力を発信

